



PRESTIGE EXCLUSIVE DAYS JAPAN 2024

ヨーロッパ式アール・ド・ヴィーヴルの世界へ ボーディングカルチャーを変える サロンクルーザーの新たな提案

さまざまなプレジャーボートを世に送り出しているヤマハが取り扱う大型艇シリーズに、新しくプレステージのサロンクルーザーが登場。それを記念して、新たな海のライフスタイルを提唱するスペシャルイベントが開催された。

文=中山清美 写真=落合明人(本誌)、ヤマハ発動機
report by Kiyoharu Nakayama, photos by Akito Ochiai(KAZI) & YAMAHA MOTOR



左:ディナーはホテルのプールサイドにあるメインダイニング「エレテギア」で、瀬戸内の食材を使った薪火料理を堪能
右:ディナーのあとは、ホテル内にある2本の階段がスパイラル状にチャペル全体を覆うリボンチャペルで、世界的なヴァイオリニスト川合郁子さんの演奏会が行われた。川合さんの奏でる名器ストラディヴァリウスの音にゲストは陶醉

ヤマハが満を持して新たなサロンクルーザーを投入するにあたって最重要視するのは、海との接し方、楽しみ方だという。今回、日本で初めて行われたプレステージのスペシャルイベント「PRESTIGE EXCLUSIVE DAYS JAPAN 2024」のテーマは“ART DE VIVRE”(アール・ド・ヴィーヴル)。アール・ド・ヴィーヴルとは、フランス語で「生活の芸術」「芸術的生活術」などの意味合いを含む言葉だ。日常生活を楽しみながら、工夫して、心豊かに暮らすことを意図しており、プレステージの故郷であるフランスの暮らしの美学やライフスタイルを表している。ヤマハは、プレステージのニューモデルが日本で進水するタイミングで、プレステージのオーナーを対象に、ヨーロッパでは主流となっているゆったりとした海での過ごし方とその美学を提案することを主眼として、このイベントを9月28、29日

に開催した。

イベントの会場となったのは「ベラピスタ スパ&マリナ 尾道」(広島県尾道市)だ。マリナと高級リゾートが融和した施設で、瀬戸内海を見下ろす高台に佇むホテルは、海と山に抱かれた大人のための隠れ家リゾート。ただ、海を眺めて過ごすことができる美しいランドスケープと、日常を忘れさせる時間が用意され、何もしない贅沢を堪能できる、まさにプレステージが提唱する“アール・ド・ヴィーヴル”にぴったりの場所だ。

今回、このイベントに招かれたのは、すでにプレステージ艇を所有しているオーナー6組。初日は、マリナのクラブハウスでプレステージの最新情報について説明を受けたあと、ホテルでの時間をそれぞれ満喫。その後、個性的な設えと特別なもてなして話題の客船(ガンツウ)の拠点でもある尾道市・浦崎の瀬戸内を見下ろす丘の上に建つラグジュアリーリゾートに集まった参加者たちは、メインダイニングでの薪火料理を堪能したあと、ホテル内にあるチャペルで世界的なヴァイオリニスト川合郁子さんの素晴らしい演奏に聴き入った。



美食で名高い広島地方を中心に修行したシェフたちが存分に腕をふるう「エレテギア」でのディナー。“食”とは歴史や文化が繰り広げてきた風土が織りなすエンターテインメント、船遊びも盛り

ロビーを抜けるとこのホテルの顔である建築家・中村拓志がデザインした「ザ・デッキ」が広がる。瀬戸内の景色をひとり占め





初日、ベラビスタマリーナのクラブハウス内SOFUカフェでイベントと新艇の説明会が行われた。今回のイベントにはプレステージ本社のセールスディレクター、Tanguy Tantrais氏も駆け付けた。その後、ゲストたちは三々五々、翌日試乗予定のM48の実艇をチェック。その広い居住性と居心地のよさに満足げだった

試乗当日は好天に恵まれ、約1時間のクルーズに出る。招かれたゲストのみなさんは、すでにプレステージのよさを十分に理解されているようで、和気あいあいの雰囲気の中、クルーズは進んだ。富裕層を中心にサロクルーザーの需要が高まっており、これからも優雅で洗練された今回のようなイベントの展開が楽しみだ



「これを機に、オーナーの休暇の過ごし方、また人生を楽しむためのライフスタイルまで提案していきたい」



ヤマハが新たなボート文化の提案を掲げて投入するプレステージのニューモデルは、マルチハル艇のM48とモノハル艇のF4.9だ。今回のイベントでお披露目されたM48は、マルチハルの特性を生かした居住性、安定性、さらに洗練されたデザインが加わり、家族や友人などを招いてのパーティーなど、これまでボートの世界が未知であった人たちにも興味を持ってもらえそうだ。あいにくの天候のため回航ができず、F4.9

は合流できなかったが、こちらはプレステージの新世代モーターヨットF-LINEのニューモデルで、やはり洋上でゆったりした時間を過ごすことに憧れる新規層を主な購入者層として見込んでいる。

イベント初日はクラブハウスでの新艇紹介とイベントの趣旨などが説明され、2日目、いよいよM48の試乗となった。試乗は2組ずつに分かれて、約1時間の瀬戸内クルーズを体験。これまでモノハル艇に親しんできたオーナーたちは、まずそのスペースの広さに驚く。48フィート艇ながら60フィート艇並みの居住空間を作り出すマルチハル艇は、瀬戸内の海で、ゆったりと仲間と時間を過ごすには最適の選択となりそうだ。

フランスのベネトゥグループの一員であるプレステージが創業したのは1989年。41フィートの1号艇から始まり、2000年に発表した36フィート艇が大人気となり、世界的なブランドへと成長する。近年は大型艇クラスへの本格的な参入も果たし、ヨーロッパのボートビルダーとしての地位を確立している。これまで30年以上にわたって、通算4千隻以上の販売実績を誇る。ヤマハは2020年からプレステージの取り扱いをスタートし、すでに15隻以上を販売している。この秋からは、M-LINEの導入とともに、F-LINEの展開に力を注ぐ。

「これを機に、オーナーの休暇の過ごし方、またライフスタイルまで提案していきたい。そこがとてもフランス的な捉え方ですね。一生懸命に仕事をすることは重要ですが、それと同じように家族や友人たちと一緒に有意義な時間を過ごすために、おいしい料理や酒



を用意して、会話やアクティビティを楽しむ。人生を楽しむ方法まで伝えたいという気持ちですね」(ヤマハ発動機上席執行役員マリン事業本部長 井端俊彰氏)

日本のボート文化の成熟度にはまだ発展の余地がある。フィッシングには行けけれど、家族や友人とただのんびりと過ごすという楽しみ方はまだまだ少ない。フィッシング、島めぐりなど目的のある使い方しかできていないのが現状だ。海に浮かんでいる週末別荘のような感覚で、快適なスペースの中、家族や友人たちと過ごすこともマリンライフの重要な楽しみ方だ。

今回のイベントのテーマでもある豊かな「アール・ド・ヴィーヴル」の世界が見えてくる。それがボートの上で実現できれば完璧だ。



BELLA VISTA MARINA ベラビスタマリーナ

日本を代表するクルージングゲレンデである瀬戸内海、そのほぼ中央に位置する「ベラビスタマリーナ」は、目の前に島々が浮かぶ静謐な湖を思わせるロケーション。陸上40隻、海上80隻保管可能でメンテナンス設備も完備

〒720-0551
広島県尾道市浦崎町1364-6
TEL:084-987-3460
www.bella-vista.jp/marina.html





DISCE GAUDERE AVEC “ART DE VIVRE”

もっと自由なボーティングカルチャーを 新たなプレステージファミリーに アール・ド・ヴィーヴルを広めたい

大型サロンクルーザーの導入に際して、これまでにない新たなイベントを開催したヤマハ。フランス流新しい海の楽しみ方を提案する今回のイベントについて、プレステージとヤマハの責任者のお二人に聞いた。

ヤマハは現在、同社の大型艇シリーズをフランスのポートビルダー、プレステージのモデルで展開しているが、欧米でのサロンクルーザー隆盛もあり、その販売により力を注いでいる。洗練され明るい居住空間、広々としたフライブリッジを備える新たなM-LINEとF-LINEで、日本のマリンライフ

の過ごし方まで変えようという意気込みだ。それに合わせて、プレステージが世界で展開してきたオーナーやポテンシャルバイヤーを巻き込んだ海でのライフスタイルを提案するイベント「PRESTIGE EXCLUSIVE DAYS」を、今回、ヤマハは日本で初めて開催した。イベントの目的やサロンクルーザー

について、ヤマハ発動機マリン事業本部の吉田也国内事業推進部長と、プレステージ本社のAPACセールスディレクター、Tanguy Tertrais氏に話を伺った。

*

—まず、今回のイベントのコンセプトを聞かせてください。

Tertrais 4年前ぐらいでしょうか、最初のころは、フランスの造船所にオーナーたちを招待して、プレステージのスタッフやエンジニアと話し合ったり、試乗してもらったりとい

う感じで始まりました。それが次第に大きくなって、米国、欧州に広がり、昨年には香港で、そして今年初めて日本でやることになりました。来年には、豪州とベトナムでも開催します。

まずは、私たちのブランドをよりよく知ってもらうためですね。改善点を聞いたり、ライフスタイルの提案をしたり。今ではオーナーだけでなく、ポテンシャルバイヤーも含めて、みなプレステージファミリーとして楽しむイベントになっています。すでに10回以上開催されており、そのコンセプトはどんどん成長しています。フランスの造船所では、3日で約300人のゲストが参加しました。ランチを食べながら、マネージメント、技術者などと語り合うのはとても楽しい時間です。—イベントのテーマになっている“ART DE VIVRE(アール・ド・ヴィーヴル)”について教えていただけますか。

Tertrais アール・ド・ヴィーヴルとはフランス語で、芸術のように美しく楽しい生き方を意味しています。ARTは芸術、技法、VIVREは生きること、生活。つまりは、暮らしの美学といったところでしょうか。フランス人は日常を楽しむ術に長けていますから

「ボートとともに海を楽しむライフスタイルも提供したい」

プレステージ
APACセールスディレクター
Tanguy Tertrais

フランスのナント生まれ。現在、多様な市場であるアジア太平洋地域のセールス業務を統括。セールスディレクターとしての経験もあり、国際大会に参加した実績を持つ



ね。お客さまに、マリンライフを心から楽しんでほしいということで付けたキャッチです。—世界のいろんなところでの経験がおありですが、日本のボーティングカルチャーについてどう思いますか。

Tertrais 日本のマリンライフはとてもユニークですね。欧米のように、一日中、海に出て家族や友人たちとのんびり過ごすという習慣がありません。フィッシングやクルーズなど何か目的を掲げてボートライフを過ごしているような感じでしょうか。日本では大型艇を所有していても年に10日しか船を出さないオーナーもいると聞きますが、米国では年に300日は使っている例も少なくありません。バーベキューをしたり、家族や仲間と船を出して、夜まで酒を飲みながら楽しむ文化をもっと自由に味わってほしいですね。

私たちは、ただボート売っているのではなく、同時にライフスタイルを売っているのです。海上でのキーマーメント、つまり大切な時間を提供している。わずか10日でもそれがベストなものになるようにね。

吉田 こういったイベントを日本でもアジア・ナンバーワン・ディーラーとして、積極的にやっていきたいと思っています。今回も、ベラビスタのことは知っていたけど、なかなか来られなかった。こういう場所なんだとわかったことがよかったと、参加されたお客さまに聞きました。そういった特別な場所を選別して、楽しい遊びがいろいろとできる方法を提案できるような、普段と違う場所やシチュエーションをご提案できればと思っています。

Tertrais これから年末にかけて、フランス本国でもまたこのイベントを開催予定です。ぜひ、日本のお客さまをフランスの造船所にお連れして、ヨーロッパの優雅な生活様式を楽しんでもらいたいですね。そして、プレステージ社のスタッフみんなと語り合い、プレステージファミリーの一員として楽しんでいただきたい。

吉田 日本のプレステージファミリー拡大のためにも、それはぜひとも実現させたいですね。

—最後に、M48とF4.9についてお聞かせください。

Tertrais M48は大変好評を得ているモデルで、これまでのカタマランではなく、まったく新しいアプローチで開発されました。マルチハル艇として、まったく違うものをオーナーに提供したかった。スペース、スタビリ



福岡県出身。造船を学んだ大学を卒業後、ヤマハ発動機に入社。学生時代から好きだった水上オートバイの開発に従事した。国内やアメリカの製造現場の管理職などを経て現職に就く

ヤマハ発動機 マリン事業本部
国内事業推進部長
吉田 也

「欧米なみにプレステージファミリーをもっと広げたい」

ティー、効率性、すべてマルチハルの特性を生かし切ったモデルです。

F4.9は第三世代。F-LINEのDNAを守りつつ、マーケットのニーズに合わせてディテールにこだわっています。マーケットにイノベーションをもたらしています。タイムレスボーティング。何年経っても、色あせないコンセプトです。

吉田 お客さまがどういったモデルを求めているか、こうしたイベントを通して満足点と不満点をしっかり聞いて、次のモデルに対する改善点として生かしていきたいですね。魅力的な日本バージョンを造る際、大いに参考になりますから。





PRESTIGE M48

マルチハルの特性を生かしてマリンスタイルに新提案

今回披露されたプレステージM48は、フランスのベネトグループが展開するプレステージ・ブランドのM-LINEという新シリーズとして、ヤマハによって日本市場に投入される新型サロンクルーザーだ。

M48は、カタマラン船型を採用したことで、

全長48フィートながら60フィートクラスに匹敵する広大な居住空間を実現している。フライブリッジからデッキに至るまで、洋上での上質な時間を提供することに重点を置いた設計が施されており、船上生活の快適性を追求している。メインサロンは大型ウインドー

で囲まれ、明るい居住空間を確保。海との一体感を生み出すと同時に、洗練されたソファやテーブル、キッチンなど究極の快適性を備えている。また、オーナーズルームを含む三つのベッドルームは、それぞれプライバシーが保たれ、各室には海を望む窓や個別の化

粧室、シャワールームが用意される。

カタマランの特性を生かした船体設計により、横揺れを抑制し、停泊中はもちろん、巡航時においても高い安定性を発揮。さらに、低速走行時には接水面積を約20%低減し、燃料経済性の向上にも寄与している。

欧米のマリンライフスタイルが国内でも広がりを見せる中、富裕層を中心にサロンクルーザーの需要が高まっている。さらにその傾向をみると、欧米で魅力的なカタマラン艇が増えているいま、国内のマリーナにおける大型カタマラン対応バースの整備も進んできた。日本での新たなマリンライフの提案としてM48が目ざされている。

SPECIFICATIONS

PRESTIGE M48

- 全長:14.79m ○全幅:6.00m ○喫水:1.20m
- 燃料タンク容量:1,200L ○清水タンク容量:600L
- 軽荷排水量:18,639kg ○温水器容量:60L
- エンジン:ボルボ・ペンタD4 V-Drive(235kW/320HP)×2

問い合わせ:

- ヤマハボート横浜店 TEL:045-775-1150
[営業時間] 9:30~17:30 [定休日]火曜日
www.yamaha-boat.jp/
- ヤマハボート西宮店 TEL:0798-37-2044
[営業時間]10:00~17:30 [定休日]火曜日
www.yamaha-boat.jp/
- ヤマハ発動機 カスタマー
コミュニケーションセンター
TEL:0120-090-819
www.yamaha-motor.co.jp/





PRESTIGE F4.9

最上級の洋上生活を約束するプレミアムヨット

プレステージF4.9は、新たなデザインコンセプト“ザ・フレンチ・リヴィエラ”のもと開発された新世代の49フィートのサロンクルーザーだ。外観デザインは、水の動きからインスピレーションを得た、エレガントかつダイナミックな曲線に仕上げられ、両舷側に配置し

たファッションプレートは、新世代F-LINEのアイデンティティを象徴している。

明るく広々としたキャビン内には、ユニークなオーシャンビューギャレーを設置し、ゆとりのあるリビングスペースを配したアフトコクピットとの一体感を演出。ゆったりとしたサ

ロン&ダイニングスペース、3室のベッドルームを配した室内ばかりでなく、サンベッドやギャレーを備えた開放的な大型フライブリッジなど、最上クラスの居住性が船上のあらゆる空間で追求されている。新設計の船型、ボルボ・ペンタ IPS650(480馬力)×2のパワー、

ジャイロシステムなどにより、走行時および静止時において、プレミアムヨットにふさわしい高次元の航走性能と安定性を実現した。

プレステージの新世代モーターヨットを象徴するF4.9は、洋上でゆったりした時間を過ごすことに憧れる新規層を主な購入者層として見込んでいる。これで2025年にヤマハが日本国内で販売するプレステージのラインアップは、F4.9のほかに、カタマランのM48、そして従来から継続して販売される520、460を合わせ、計4モデルとなった。いずれのモデルも、大切な人との時間を洋上で過ごすという新たなマリンライフスタイルの実現に大きく貢献しそうだ。

SPECIFICATIONS

PRESTIGE F4.9

- 全長:15.18m ○全幅:4.49m
- 喫水:1.17m ○燃料タンク容量:1,300L
- 清水タンク容量:586L ○温水器容量:60L
- エンジン:ボルボ・ペンタ IPS650(353kW/480HP)×2

問い合わせ:

- ヤマハボート横浜店 TEL:045-775-1150
[営業時間] 9:30~17:30 [定休日]火曜日
www.yamaha-boat.jp/
- ヤマハボート西宮店 TEL:0798-37-2044
[営業時間]10:00~17:30 [定休日]火曜日
www.yamaha-boat.jp/
- ヤマハ発動機 カスタマー
コミュニケーションセンター
TEL:0120-090-819
www.yamaha-motor.co.jp/

